

## 29. 福岡県てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度活動報告

福岡県てんかん治療医療連携協議会委員長  
九州大学病院 脳神経内科  
重藤寛史

### 1. 概要

てんかんは診断が難しい場合があり、てんかん診断に必須の脳波も判読が困難なことがある。治療においても無投薬でよいものから、単剤、多剤、外科治療、食餌療法まで様々に存在する。適切な診断・治療のためには相応の知識が必要であり、複数の医師による診断が望ましい。対象年齢も乳児から高齢者まで幅広く、医療・福祉の選択肢も幅広い。「てんかん」に対する偏見や理解は地域によって温度差がある。福岡県てんかん支援拠点病院では、これらを踏まえた上で活動を行っている。

てんかん支援拠点病院のてんかん診療体制として、「てんかん脳神経内科カンファレンス」、「てんかんカンファレンス」を定期的に開催し、てんかんの正しい診断を行い、抗てんかん発作薬治療、てんかん外科治療において最適な治療の選択ができるような体制をとっている。拠点病院内にて「てんかん医療運営委員会」を定期的に開催し、移行期医療や精神症状をもつてんかん患者についての対応を検討している。

地域連携に関しては、初学者向け「脳波判読セミナー」を 8 回、中級者向け「福岡臨床と脳波懇話会」を 6 回、WEB を用いて開催し、地域てんかん医療の教育活動を行っている。福岡県てんかん治療医療連携協議会の委員として、九州大学病院医療連携室およびてんかん協会所属の委員を増員し、てんかんに関する情報源を増やしててんかん医療の均てん化を進めている。精神科におけるてんかん医療の啓発として、福岡県精神科病院協会理事会にて拠点病院事業を紹介し、精神科病院に出向いての講演も行っている。

てんかんへの理解を深めるため、「てんかん総合講座」、「福岡県てんかん支援拠点病院研修会」を開催している。2024 年度はそれぞれ 200 人前後の参加者があった。また、来る 3 月に福岡県主催の「精神障害への理解を深める講演会」および拠点病院主催の「市民公開講座」にててんかん啓発活動を行う予定である。

### 2. 福岡県のてんかん診療体制

#### 1) 九州大学病院のてんかん支援拠点病院としてのてんかん診療体制

てんかんの診断や治療方針は一人だけの医師の判断では困難なことや誤ってしまうことがある。それを防ぐには、複数の医師での検討や医師以外の職種の意見を取り入れることが重要である。九州大学病院では、新患・再来患者に対して、2 週に 1 度の「てんかん脳神経内科カンファレンス」を行い診断や治療方針の確認を行っている。また、従来通り、他施設も WEB にて参加できる「てんかんカンファレンス」を月 1 回開催し、難治性てんかんに対する抗てんかん発作薬治療、てんかん外科治療において最適な治療の選択ができるような体制をとっている。院内では「てんかん医療運営委員会」を定期的に開催し、てんかん医療で問題になっている移行期医療や精神症状をもつてんかん患者についての対応を検討している。

てんかん医療に対する教育的な場として、てんかんや脳波の初学者に対する「脳波判読 WEB セミナー」を開催している。また、脳波への理解を深める勉強会として、九州大学病院だけでなく、福岡大学病院小児科、福岡大学病院検査部、福岡大学筑紫病院脳神経内科、福岡大学筑紫病院小児科、福岡こども病院小児科、小倉医療センター精神科など県内の医療施設が参加する「福岡臨床と脳波懇話会」も引き続き定期的に WEB 開催している。

#### 2) 福岡県てんかん治療医療連携協議会

福岡県てんかん治療医療協議会委員会を 5 月と 2 月の 2 回開催し、活動状況の報告、今後の活動に関する意見交換を行った。てんかん治療医療連携協議会の委員として、九州大学病院医療連携室から 1 名、てんかん協会から 1 名を新たに選出した。てんかん専門医が減りつつある精神科医師へのてんかんの啓発として、福岡県てんかん治療医療協議会委員の発案に基づき、福岡県精神科病院協会理事会で「福岡県におけるてんかん支援事業について」の紹介をし、その結果、精神科病院での出張講演を開催することができた。

### 3. 活動状況

#### 1) てんかん治療医療連携協議会委員の増員

2 名を増員し、以下の委員構成となった。

九州大学病院	重藤寛史 保健学部門教授 磯部紀子 脳神経内科科長 迎 伸孝 脳神経外科助教 向野隆彦 脳神経内科助教 室岡明美 医療連携センター (神田奈々 てんかん支援拠点病院事務) (松本文子 てんかん支援拠点病院事務)
久留米大学病院	本岡大道 精神神経科准教授
北九州総合病院	石井雅宏 小児科部長
福岡歯科大学医科歯科総合病院	鳥巢浩幸 小児科・小児神経科科長
飯塚病院	高瀬敬一郎 脳神経内科部長
福岡県精神保健福祉センター	楯林英晴 センター長
福岡市精神保健福祉センター	川口貴子 センター長
北九州市立精神保健福祉センター	小松未央 センター長
てんかん協会	岡本 朗 日本てんかん協会常任理事 吉田あけみ 日本てんかん協会福岡県支部長 熊丸恭子 日本てんかん協会福岡県支部
福岡県保健医療介護部健康増進課こころの健康づくり推進室	増本啓介 松田京子

2) 専任事務員増員

1人追加し2人体制とし、地域医療連携室職員のバックアップも併せ、平日の10:00~15:00であればいつでも相談受付窓口電話、てんかんの新患予約に対応できるようにした。

3) 2024年度第1回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2024年5月20日

2024年度第2回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2025年2月4日

4) 第1回 てんかん医療運営委員会 2024年9月30日

第2回 てんかん医療運営委員会 2025年1月20日

第3回 てんかん医療運営委員会 2025年3月5日 (活動予定)

5) 福岡臨床と脳波懇話会 (月例会) のWEB開催

第561回 2024年4月17日

第562回 2024年5月15日

第563回 2024年6月19日

第564回 2024年9月18日

第565回 2024年11月20日

第566回 特別講演会 2025年1月24日

第567回 2025年2月19日

6) 脳波判読 WEBセミナー

2024年9月24日 脳波判読の基礎

2024年10月8日 モンターージュ、Phase reversal

2024年10月22日 正常亜型、睡眠

2024年11月12日 アーチファクト

2024年11月26日 徐波・意識障害

2024年12月17日 焦点てんかん

2024年12月24日 全般てんかん

2025年1月14日 Critical care EEG

7) てんかんカンファレンス

毎月1回 (4月5日、5月17日、6月21日、7月5日、8月30日、9月5日、11月1日、11月30日、1月)

17日、1月31日、2月21日、3月12日)

8) 第34回 てんかん総合講座 2024年8月5日  
公益社団法人日本てんかん協会福岡支部が毎年行っている「てんかん総合講座」を昨年度に引き続き福岡県てんかん支援拠点病院との協働事業として行った。「成人のてんかんについて」の演題で九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野/九州大学病院 脳神経内科の重藤寛史氏、「てんかんの基礎対応と小児のてんかんについて」の演題で福岡歯科大学医科歯科総合病院小児科・神経小児科の鳥巢浩幸氏の講演が行われた。てんかん当事者にも体験発表をしていただいた。福祉関係者を筆頭に、医療関係者、教育関係者、患者本人、患者家族など212人の参加があった。

9) 第3回 福岡県てんかん支援拠点病院研修会 2024年11月6日「てんかんと精神症状」をテーマとした研修会をWEBセミナーにて開催した。久留米大学医学部神経精神医学講座の本岡大道氏に「てんかんとうつ症状」、安元眞吾氏に「てんかんと精神病症状」、増本政也氏に「心因性非てんかん発作」の演題で御講演いただいた。当日ライブ参加92名、オンデマンド106名で、医師、看護師、福祉士、生活支援員、介護福祉士、就労継続支援員、他様々な職種の参加があった。た。当日ライブ参加92名、オンデマンド106名で、医師、看護師、福祉士、生活支援員、介護福祉士、就労継続支援員、他様々な職種の参加があった。

10) 福岡県会議員によってなされた県議会における一般質問 2025年2月13日  
てんかんの啓発、学校現場への対応、就労の問題について協力した。

11) 市民公開講座 2025年3月1日 (活動予定)  
てんかんは身近な疾患であるということを啓発する意味を込めて重藤寛史氏 (福岡県てんかん支援拠点病院・九州大学病院脳神経内科) が「認知症と高齢者てんかん」をテーマに、家族や非医療従事者が口腔用けいれん薬が使用できるようになり小児神経学会から対応マニュアルが出されたこともありチョン ピンフィー氏 (福岡県てんかん支援拠点病院・九州大学病院小児科成長発達医学分野) が「小児のてんかん」をテーマに講演を

12) 精神障害への理解を深める講演会 2025年3月5日  
「てんかんの基礎について」をテーマに福岡県てんかん支援拠点病院/九州大学病院 脳神経内科の重藤寛史氏が行う。

13) 全国てんかんセンター協議会 2025年3月22~23日 (金沢)  
支援拠点病院から医師2名、看護師2名、検査部2名、医療連携センター1名が発表あるいは座長を行う。